

高校公民科で若者の「議論」を教材化する

－ NHK「青春リアル」を題材として －

東京都立総合工科高等学校 坂口 克彦

1. はじめに － より身近な高校公民科「青年期」学習への改革を －

高校公民科倫理・現代社会の青年期学習の中では、まさに青年期の只中にある高校生に対して思春期の悩みを考えさせたり、意見表明させたりする実践が試みられてきた。

新指導要領でも、以下のように現代的課題と自己をつなげて考えさせることと、取り扱いに当たったの論述・討論の導入がうたわれている。

【平成21年3月告示 高等学校学習指導要領】

公民科倫理

2 内容 (3) 現代と倫理

イ 現代の諸課題と倫理

生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人権と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。

3 内容の取扱い

(2) ウ (イ)

イに示された倫理的課題が相互に関連していることを踏まえて、学習が効果的に展開するよう留意するとともに、論述したり討論したりするなどの活動を通して、自己の確立を促すよう留意すること。

筆者自身も小論文作成やディベートの導入等によって、生徒の意見表明力を高めるための実践を毎年実践してきた。ただ、その内容については「死刑存廃論」「情報化是非論」「生命倫理論」「夫婦別姓論」をはじめとする、いわゆる定番物に終始してきた。

確かにそれらは、人間の生死にまで関わる場合もあり、自己省察をさせるのに適した素材ではあるが、高校生の実生活からすると、やや遠い存在、深すぎる存在について扱ってきたとの印象がある。

2. より身近な「青年期」学習への模索 － NHK「真剣10代しゃべり場」の利用 －

それを補正する意味で、筆者はまず、NHK教育テレビ「真剣10代しゃべり場」という番組を利用する実践をおこなった。

「真剣10代しゃべり場」とは2000年から2006年まで放映された、全国から選ばれた10代の収録参加者15人(途中からは10人制に)が、毎回1つのテーマに沿って「司会者なし、結論なし」で討論し合うという内容の番組である。

この番組では、高校生にとってより身近な素材「いじめ」「恋愛観」「流行」なども取り扱われ、

この議論のVTRをきっかけに、授業に持ち込む手法を導入した。

しかし、この番組の場合は、以下のような特徴があった。

- ①. 45分間の討論が長すぎ
- ②. 司会も結論もなく、素人集団なので聞き取りづらいことが多発
- ③. 収録参加者の声の大きさを全体議論の偏ることが多発

以上のような理由により、番組自体の社会的波紋は大きかったものの、高校公民科授業内での利用については、すぐに停止せざるを得なかった。

3. ツイッター世代に合った「青年期」学習への模索

一方で上記番組の終了した2006年以降、高校生を取り巻く環境は激変した。情報端末の普及で、単なる個人メールによるパーソナルコミュニケーション段階を飛び越え、「ブログ」、「プロフ」などの簡易的な掲示板サイトの普及で、幅広いコミュニケーションがとれるようになってきたことは、非常に大きい。

そのような状況の中で筆者は、公民科倫理授業の中で「情報倫理」について取り扱うなど、工夫も続けてきた。「匿名性」、「学校裏サイト」、「ハッキング」、「フィッシング詐欺」、「2ちゃんねる」、「ファイル交換ソフト」などの問題についてである。特に現任校は科学技術系統の高校であり、「情報」の学科を有しているため、生徒の意識も高く、一定の反響も得た。

しかし、ここ1～2年での生徒をめぐる情報化の波はさらに急激であり、年齢制限が緩和されて高校生が参加できるようになったSNS（Social Networking Service）サイトや、つぶやき（Twitter）サイトが急速に普及した。その中で生徒たちは、ある程度以上の「意見表明」が出来るようになってきている。こういった、学校教育外での「意見表明」能力の養成は喜ばしいものの、近視眼的な書き込み（Follow）にとどまっている現実があり、筆者は、しっかりとした論理構築や書き込みをするに当たっての情報倫理的なものまで含めた実践素材はないかと探していた。

4. NHK「青春リアル」の導入

2009年4月から放映が開始されたこの番組は、前出の「しゃべり場」の後継番組であることは言うまでもない。ただし大きな違いは、以下の通りである。

- ①. 議論がネット上で行われること
- ②. だからこそ、議論は文字情報で残ること
- ③. 収録参加者は全国にそのままいて、生活する様子がドキュメント放映されること
- ④. TV放映されない間にも、ネット上では議論が続くこと
- ⑤. 収録参加者以外の一般の人々もネット上で意見表明できること

前身番組と異なり、収録参加者年齢も16歳から29歳と広がり、討論テーマ（トピック）の幅も広がり、かなり高校公民科教育で導入しやすくなったし、3カ月単位で収録参加者をドキュメント形式

で追うため、そこに時事問題・社会問題などが盛り込まれて、授業の中で単発的に使うだけでなく、より長いスパンで、より深い考察をさせることが出来る可能性も持っている。

【表1】 NHK教育・総合テレビにおける若者対象番組

放映年	番組名	司会者等
1962～1966年	若い広場	
1963～1966年	われら10代	
1966～1969年	若い世代	
1969～1982年	若い広場	
1982～1987年	YOU	糸井重里・日比野克彦・笑福亭鶴瓶
1987～1990年	土曜倶楽部	いとうせいこう・笑福亭鶴瓶
1990～1991年	燃えてトライアル	辻仁成・桑田靖子
1990～1992年	青春トーク&トーク	大泉実成・つみきみほ
1991～1994年	ニューエイジディベート	松尾貴史
1992～1994年	ファイト!	ルー大柴・秋山仁・ちはる
2000～2006年	真剣10代しゃべり場	
2006～2009年	一期一会 キミにききたい!	
2009～年	青春リアル	鈴木謙介・矢口真里

5. NHK「青春リアル」の構成

(1) 「真剣10代しゃべり場」との相違点

この「青春リアル」は週1回放映されるテレビ番組としてだけ構成されているわけではない。NHKのインターネット上のサイトと連動して初めて成立する構成になっている。

NHKサイト上では「青春リアルとは…ウェブ上で人生の悩みを真剣に話し合ったら、<現実の社会>や<自分>に向き合う気持ちはどう変わる? 10代20代の“いま”を描いて共感度大の新感覚ネットドキュメント」と紹介されている。

つまり、「真剣10代しゃべり場」時代のような、単純な「その場限りの」討論番組としてではなく、激動してゆく参加者一人一人の心情を3ヶ月という期間ずっと追ってゆくドキュメント番組という位置づけになっているのである。

(2) 「青春リアル」の概要

- ①. 3ヶ月で11名の一般参加者(15～29歳)を募り、「第〇期メンバー」とする。
- ②. 1名が1つの「トピック」(話材)を提供し、メンバー同士のメール交換が開始される。
- ③. また、同時に一般視聴者(年齢不問)もメールをNHK宛てに打つことが出来る。
- ④. メンバーは全国にそのままいて、NHKのディレクターがカメラを回してドキュメント取材を続ける。

- ⑤. 「トピック」が立てられて、十分な web 上の討論と、ドキュメント取材映像が揃ったところで、放映される。
- ⑥. 放映後であっても「トピック」へのメールは続行可能。
- ⑦. 町長として鈴木謙介・関西学院大学准教授が、アシスタントとして矢口真里氏がコメント。

6. NHK「青春リアル」を用いた教材化の例

(1) 対象

高等学校第3学年 公民科倫理

(自由選択…なお、全員必履修の「現代社会」も第3学年で設置)

選択者 12名 (男子 10名、女子 2名)

(2) 授業構成

4時間配当 (2時間連続授業×2週)

第1時 導入とNHK オンライン web サイトの紹介

第2時 「青春リアル」放送 VTR を、半分程度上映

トピックに関する、生徒なりの「意見表明」(文字化させる)

第3時 「青春リアル」放送 VTR を、残り半分程度上映

トピックに関する、生徒なりの「意見表明」(文字化させる)

第4時 文字化した生徒たちの「意見表明」を参照しながら、選択者全体での討論活動

(3) 第2時の「意見表明」活動例 — 参加者の立てたトピックに対する意見表明活動 —

《 参加者の立てたトピック 》

先日、彼女に軽くプロポーズ的なことをしました。

今はフリーターで収入が安定していないので、2年後をメドに「正社員」になる。

そうしたら結婚しようと約束したんです。ちなみに彼女もフリーターです。

そこで僕は、3年ほど前に近所の雑貨屋さんで「アルバイト募集・正社員登用あり」と
はり紙がしてあったのを思い出し、電話してみました。残念ながら募集してませんでした。

でも、そこは自転車を通えるし大好きな所なので、楽しく働けるはずで、2年のうちには募集が出る
と思っているので待っているところです。

いま正社員になるためにやっているのは正直それだけで、

どんなトピックをたてようかとディレクターさんと話している時、そのことを話したら、

「雑貨屋さんを待っているだけって、甘くないかな」と言われました。

僕には危機感がなかったので意外でした。なので、そのことをトピックにしようと思います。

僕は、彼女との約束は約束として、一生の仕事にするなら、やりたくないことはやりたくないです。それなら部屋でゲームやってた方がましです。

これまでずっとなんとかなってきたので、職探しもなんとかなるって思ってるんですが、それってやっぱり甘いですか…。

正社員になるって、そんなに大変なんですか？

《 第1問 》

(本格的なメールでの討論シーンに入る前にVTRを止めて…)

「ロロ」の言う、「彼女との(結婚の)約束は約束として、一生の仕事にするなら、やりたくないことはやりたくないです。それなら部屋でゲームやってた方がましです。」

について、一般視聴者としてメールを打つと仮定して、文章を作成せよ。

《 第2問 》

(メンバーからのメールで痛いところを突かれ、へこんでしまってゲームに逃避したシーンがVTRで流れたところで止めて…)

自分が「ロロ」の彼女だとする。テレビで今のシーンを見たところで、彼氏である「ロロ」にメールを打つとしたら、どんな内容にするか。

「うん、今、テレビみた。」という書き出しで、彼女の立場に立って、文章化せよ。

《 第3問 》

(なぜ、やりたくない仕事をやりたくないかという理由が明かされたシーンがVTRで流れたところで止めて…)

「ロロ」が、一生の仕事にするなら、やりたくないことはやりたくない理由は、父親の姿を見たからであると今、示された。その理由を聞いた上で、どう感想を持ったか。

一般視聴者としてメールを打つと仮定して、文章を作成せよ。

(4) 上記第2時指導案のポイント

このトピックは「仕事」と「結婚」という2つの部分が焦点とされている。

今回の指導対象クラスは、半分が大学・専門学校進学者、半分が就職(公務員)希望者である。一部には既に一回就職試験または公務員試験に「落とされた」者も含んでいる。そういった意味で、「将来の仕事」ということに関しては大変に敏感な集団特性を持っている。

また、17~18歳世代ということで当然、恋愛・結婚観に関しては大きな関心を持っている。その意味で、このトピックには出席者全員が大きく「食い付く」ポイントを2つ有していたものと言える。また「人の立場に立つ」ということもし易いテーマだったと考えられる。

(5) 生徒の「意見表明」の実例

《 第1問 》への回答例

男子生徒による回答例 :

「23歳にもなって、やりたくないことはやりたくないとか言っていたら、何にも出来ません。正社員にもなれません。

17歳の僕は今、正社員になるために就職活動をしています。これまでバイトの面接を何回も受けましたが、だめでした。そんなバイトの面接も受からないような奴が、いきなりガチの就職試験に挑んでいるのです。

確かに、自分の好きなことを仕事に出来たら最高だし、ゲームでお金稼げたら、それ以上のことはありません。でも、プロポーズされた彼女が、2年待ってもゲームばかりしているあなたと結婚しようと思うのでしょうか？

バイトに受かるかどうかは別として、社員登用されるのが確実だと思っていませんか？

ちょっと甘すぎるかも…。

あと、ゲームで飯、食べる方法1つだけありますよ、『デバック』ってやつが。」

《 第2問 》への回答例

男子生徒による仮託文例 ① :

「うん、今、テレビみた。

テレビに映っているのをみると、結婚の約束はウソなのかなと思っちゃうんだよね。

アニメ、ゲームとか趣味には口出ししないけど、家に引きこもってるだけじゃ仕事は見つからないと思うよ。

相談には乗るから、もっと行動してみて。」

女子生徒による仮託文例 ② :

「うん、今、テレビみた。

私は、ロロのやりたいこと、すごく分かるよ。

プロポーズされたのもすごく嬉しかったし、私はロロと一緒にになりたいと思ってる…よ？

でも、やっぱり結婚したいし、結婚したら子どもだって欲しい。

そしたらお金、必要でしょ？ 生活費だって…。

だから2年後目指して頑張らないといけないよね。それは私も。

だから一緒に頑張りたいな。一緒になるためにさ…。

好きな仕事に就くためにも、少しずつ行動していこ！」

《 第3問 》への回答例

男子生徒による回答例 :

「その気持ちはものすごくよく分かります！

僕も今すごく悩んでいます。小学校の頃から今までやりたかった仕事がありました。でも今思うと、

高校までに僕はどんな準備をしてきたらう。そして高校時代に何をしたのか。正直言って、何もやりませんでした。

その仕事の道が断たれたわけではありませんが、親に怒られたり自分で悩み続けたりと、今とっても辛いです。ですが、希望は捨てていないし、やりたい事は増えていっています。

大事なのは、過去なんて見ていないで、今を見て、未来を勝ち取ることだと思います。

ですからロロさんも、これからで良いです！

全然間に合います。 がんばれ！」

7. NHK「青春リアル」を用いた教材化の効果と展望

(1) ドキュメンタリー効果

発表者が従前に実践した「真剣 10代しゃべり場」を用いた指導案との大きな違いは、参加者の日常生活が見えるドキュメンタリー効果である。

「しゃべり場」は東京のスタジオでの、その場限りの勝負であり、その時の声の大きさを議論の方向性が決まってしまうが、今回の「青春リアル」は参加者が口べたであろうが構わない。それよりも、地元での日常生活が描かれることで、しゃべったりメール交換したりする以上の情報が「メンバー」にも「一般視聴者」にも得られる部分があり、議論も深まる。

(2) 過去ログの保持効果

「しゃべり場」は、VTRを使ったとしても授業が終わってしまえば、言葉がその場で消えてしまう弱みを持っていた。一方で、「青春リアル」は授業が終わっても過去ログが保持される。つまり、授業終了後も生徒が「メンバー」のその後を追いかけることもできる。

(3) 自ら意見を「メンバー」に届けられる可能性

今回の指導案では、「意見表明」を紙で書いて提出させて、クラス内討論に持ち込むことで完結させる形としたが、ICT教育機器の普及によって環境整備がなされれば、そのまま生徒の意見をコンピュータ入力させ、NHKのwebサイトに打ち込み、生徒の意見が公開されたり、「メンバー」個人に届くことも期待できる。

うまく行けば、生徒の「意見表明」が「メンバー」の心を動かし、交流できたりという新たなコミュニケーション誕生という効果も期待できる。

さらに進んで、生徒と「メンバー」の交流が、互いの行動にまで影響を与えることが出来る可能性も持つ。

(4) メンバー年齢幅の広がりによって、広い社会を見せることの出来る可能性

「青春リアル」は、「メンバー」の年齢対象を15～29歳に引き上げたため、社会人や主婦までもが含まれるようになった。

その結果、2010年春～夏期、つまり「第4期メンバー」を例にとると、農林水産省のキャリア官僚（28歳）や沖縄出身のフリーター（24歳）などが、彼らのトピックで「日本の食糧自給率の危機」、「宮崎牛の口蹄疫問題」、「沖縄の基地問題」を取りあげた。

それらが、時事的に大きなニュースになると共に、「メンバー」も「一般視聴者」も（授業を受けている生徒たちも…）、トピックを共有している「仲間」が直面している問題としてとらえるようになって、メール記述つまり「意見表明」記述が如実に変化する様子が見られた。

（5）残る問題点

第1は、「情報倫理」的側面。メールではどうしても「舌足らず」になることが避けられず、「メンバー」のちょっとした発言が『炎上』状態を生むこともある。2010年秋期の第5期メンバーでは最長老の外資系企業社員（29歳）の「上から目線」的書き込みが、トピックの本質とは関係ないところで大きな波紋を呼ぶことになった。

第2は、NHK側による情報操作。もちろん上記の「情報倫理」的側面やセキュリティ的側面からも、これは一律に批判されるべきものではない。ただ、公開されたものを見れば「メンバー」同士や「一般視聴者」からのメールがすべてディレクターによるフィルターにかけられ、しっかりした長さの意見だけ公開されたり、本人に伝えられると予測される。授業で生徒が誠意を持って「意見表明」したのも、本当に「メンバー」へ届くかどうか分からないのは惜しまれる。

【 参考文献 】

杉浦正和・和井田清司、『授業が変わるディベート術！ 生徒が探究する授業をこうつくる』、国土社、1998年、176p.